

# 課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔 取組 1 〕 医師・歯科医師を対象とした事業  
 ( 2 ) 特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成  
 難治性疾患診断・治療領域 ( 臨床病理を含む )

整理番号	8
------	---

申請担当大学名 ( 連携大学名 )	信州大学 ( 札幌医科大学、千葉大学、東京女子医科大学、京都大学、鳥取大学 ) 計 6 大学
事業名	難病克服！ 次世代スーパードクターの育成
事業責任者	遺伝医学・予防医学講座 教授 福嶋 義光
<b>事業の概要</b>	
<p>中央診療部門として遺伝子医療部門が設立されており、特色ある遺伝子医療を実践している 6 大学が連携して、1 年間の on the job トレーニングプログラムを開発・実践する。各大学は、本事業の研修を希望する医師 ( 専攻医 ) を全国公募により、遺伝子医療部門所属の医員として毎年 1 名、1 年間採用する。専攻医は、所属大学遺伝子医療部門で研修を行う以外に、他大学の 4 週間の研修プログラムに 2 つ以上参加する。各大学で展開されている特色ある遺伝子医療 ( 適切な遺伝学的検査の実施と遺伝カウンセリング、及び遺伝子情報に基づく治療、等 ) を経験することにより、多様で幅の広い難治性疾患で必要とされるマネジメント能力、すなわちヒトゲノム解析・遺伝学的検査の実施、結果判定、結果告知、遺伝カウンセリング、難病患者支援、難治性疾患治療開発、等の能力を養う。全国遺伝子医療部門連絡会議を通じ、全国的な普及を図る。</p>	
<p>推進委員会からの主なコメント : 優れた点等、 : 充実を要する点等</p>	
<p>難治性疾患に対するゲノム解析・遺伝子検査が今後ますます重要になると思われるが、診療現場では専門家が少なくその養成は重要課題であり、トレーニングプログラムも優れている。毎年、基本的診療領域の専門医資格を持つ 6 名の医師を、臨床遺伝専門医制指導医がいる遺伝子医療部門業務に参加させ、on the job training を行い、オールラウンド臨床遺伝専門医を養成するという目標が明確で実現性がある。事業終了後も実績をもとに事業継続可能である。既に臨床遺伝教育・診療で実績のある 6 大学が対等の関係で連携する体制であり、効果が期待できる。各々の大学が共通の必修課程と特色のある選択課程を有し、他校における一定の課程の受講も必要であるという点で評価できる。全国公募で学生を募集する点や、全国遺伝子医療連絡会議を活用する点などが評価できる。受入れ目標人数を達成するためにも、高度専門医療機関などへの広報活動の充実が必要ではないか。各大学の受入れ医師数が年 1 名であり少ない印象を受けることから、例えば参加施設を増やすなど、更なる充実を期待したい。</p>	
<b>留意事項</b>	
<p>[ 様式 A - 2 ] 教育プログラム・コースの概要について、修了要件の記載が不適切 ( 単位数又は履修時間数の記載がない ) であり、また、履修科目等の記載も不適切 ( 各授業科目の単位数又は履修時間数の記載がない ) であることから、履修者に分かりやすいように適切な修正を行うこと。</p>	